

令和2年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校

学校長 稲垣 裕

1 教育目標（目指すべき人間像）

- (1) ふるさとに誇りと愛着を持ち、広い視野に立って（地域）社会に貢献できる人間を育成する。【ふるさと創生】
- (2) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。【確かな学力】
- (3) モラルを重んじ、各自が責任感を持ち、他者を思いやる心豊かな人間を育成する。【豊かな人間性】
- (4) 健康や体力の増進に努め、逞ましさと活力を持って行動する人間を育成する。【健康・体力】

2 中・長期的目標（経営方針）

(1) 学校の現状

- ① **求められる人材への対応**：能登地区唯一の工業科単独高校として、本県基幹産業を担う人材の育成を使命とし、ものづくりを中心とした専門教育を行っており、就職希望者の殆どは専門性を生かした仕事に就いている。変化の激しい現在の社会・経済状況にあって、求人状況の変化に翻弄されることなく、有為な人材の育成に継続的に取り組むことが必要。
- ② **資格取得の奨励**：多くの資格取得に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者が増加している。資格取得のための放課後や休業中の補習と盛んな部活動との両立を目指し、時間の有効活用に学校全体で取り組んでいる。
- ③ **規範意識の向上**：部活動については、全員加入を掲げ推進し、運動部加入率約80%と高い加入率を維持している。部活動を通じた社会性や規範意識の向上に取り組むとともに、生徒会や部活動単位による一日一善運動や、規範意識週間を設けるなど、生徒の健全な心身の育成に向け、学校全体で組織的に取組を進め、成果を上げている。
- ④ **地域社会との連携**：工業高校の特色を生かした地域に必要な物品等の製作や、地域住民と共同した防災避難訓練を実施するなど、地域と連携した活動を推進し、生徒の社会貢献に対する意識を高めている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底しながら、確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
- ② 時代を展望し、望ましい勤労観や職業観をもち、将来への見通しをもって行動できる人づくりを目指す。
- ③ 産業社会の変化に対応できる社会人としての、コミュニケーション力、課題発見力・解決力、創造力などの総合的な能力(プロセススキル)を身につけた人づくりを目指す。
- ④ 健康や体力の増進に努め、心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指すとともに、相手の立場に立ち他者を思いやる心豊かな人間性を育む。

(3) 教職員、学校組織などの望ましいあり方

- ① 教職員の意識改革を図り、教育目標をよりよく達成する(具現化させる)ために、教職員一人ひとりが学校経営に主体的に参画する意識を持ち、学校の各分掌が自らの役割を担いながら、他の分掌と協働して学校運営に組織的に取り組む。(個人の達成感だけでなく、組織としての達成感を共有できる体制の構築)
- ② 自己評価や他者評価(生徒による授業評価を含む)を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、教員一人ひとりの指導力の向上や教科全体での授業改善に努める。
- ③ 産業構造の変化や技術革新に対応できるよう、産業界の動向を常に把握するとともに、本校生徒に適した指導内容・教育課程・教育システムを模索し、地域に必要なとされる「ものづくり教育」を目指す。
- ④ 工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校づくりを推し進める。
- ⑤ 教職員が協働して、心身ともに健康な職場環境の構築を目指す。

3 今年度の重点目標

- (1) 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学カスタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。
- (2) 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。
- (3) 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。
- (4) 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。

自己評価計画書

						石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	教務課 各教科	i P a d の導入などICT機器を活用した授業やアクティブ・ラーニング型の授業は多くなっている。今後更に「主体的・対話的で深い学び」を目指し、思考力・表現力・コミュニケーション力の向上に繋がる授業改善と教材研究が望まれる。	【努力指標】 互観授業、公開授業・研究授業等で得られた授業改善の方策を学校全体で共有し、指導力の向上を図り、授業の質を高めている。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	教員対象に 7月・1月にアンケート調査
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出题方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	教務課 各教科	定期試験や資格試験前の家庭学習はしっかり取り組み、概ね良好であるが、継続した学習習慣が身につけているとはいえない。1年を通して自発的な学習が定着するよう工夫が必要である。	【満足度指標】 授業時間外(休み時間、放課後、家庭)を利用して、学習に取り組むことができている。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて80%以下の場合には取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的にを行い、読書の習慣を身に付けさせる。	図書課 各教科	貸し出し図書数について、生徒一人当たり平均貸出し冊数は増加傾向にあるものの、特定の生徒に偏っている傾向が見られる。	【満足度指標】 校内の読書運動を通して、読書や図書館の利用が身近なものになってきている。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	A・B合わせて50%以下の場合には取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格・検定取得に対する生徒の意識が高まっているが、年ごとに受験者数の増減が見られ、学科の枠を超えて種々の資格・検定に挑戦する取組が必要になっている。	【成果指標】 資格・検定試験合格者数が増加している。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	C・Dの場合は、問題点を分析し具体策を検討	1月末の資格・検定試験合格者数を検証
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	工業科 関連教科	昨年度のゴールド・シルバーの認定者は84人、そのうちゴールド特別表彰者は20人となった。2年次にジュニアマイスターに認定された3年生も多数いるが、更に上位認定を目指し難易度の高い資格・検定への受験奨励と補習の充実が求められている。	【成果指標】 社会が専門高校生に求める専門的な資格や知識の指標となるジュニアマイスター認定者数が増加している。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・1月の認定者数を検証
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路指導課 工業科 学年	地域企業への理解を深め、仕事の意義を理解し、自分自身の適性を考えるとともに、進路情報を的確に把握し、意識を高める必要がある。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識の高揚に繋がった。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	A・B合わせて、90%未満の場合には、取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	進路指導課 教務課 工業科 学年	近年、求人件数が上向き傾向にあったが、新型コロナウイルスの影響で今後の動向が予想できない状況にある。今後は、更に基礎学力とコミュニケーション力を身に付けた人材が強く求められることとなる。進学希望者(四大・短大)は推薦入試での受験を希望している為、面接試験対応をしなければならない。	【満足度指標】 基礎学力やコミュニケーション力が付いてきた。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	A・B合わせて、80%未満の場合には、取組を再検討	3年生を対象に 7月・12月にアンケート調査
				【成果指標】 早い段階での就職内定を勝ち取る。	1回目の就職試験における内定率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	10月末における内定率を検証

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	生徒会課 運動部顧問	県高校総体の総合成績で、4年連続取組賞を受賞した。剣道部・弓道部の準優勝、ヨット部男女の優勝が大きく貢献した。その他の団体・個人競技でベスト8に入っている。	【成果指標】 県高校総体の総合得点75点以上獲得する。 (前年度は75.5点)	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	C・Dの場合は、取組を再検討	県高校総体、県新人大会の成績結果を検証
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	生徒会課 文化部顧問	羽工祭、高文連関連行事、工業部門の各種大会、校内外での発表・公開・応募の機会を増やすことにより、活動成果に満足している。	【満足度指標】 生徒は文化部活動をより活発にしようとして行動し、その取組や成果について満足している。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事で生徒がより積極的に参加する工夫をした結果、昨年度は99%の生徒が「満足した。」と回答し、年間を通して意識が高かったことが伺われる。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満足のいく行事になっている。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を行い、生徒との相互理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	生徒指導課 学年	全ての教育活動や規範意識向上等の取組によって、昨年度は99%の生徒が、「規範意識が向上した」と回答し、規範意識といじめ防止の意識が高まっている。	【満足度指標】 規範意識やいじめ防止の意識が向上し、規則やマナーを守り、相手を思いやる心が身についている。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	A・B合わせて90%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	⑤ 保健日よりや掲示物、集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	保健指導課 教育相談課 学年	保健室利用者数は前年度と比べ、1.6倍になり、病気やけが、相談等で来室する生徒が増えた。しかし、心身の健康管理を意識していると答えた生徒が90%から93%(A及びB)と上昇。特に個別指導に取組んだ結果、受診率は48.1%(H30)から92.9%(R1)と大幅に向上した。	【満足度指標】 自分自身の心と体の健康管理を日頃から意識して生活できている。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	A・B合わせて80%以下の場合には取組を検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	生徒会課 学年	海岸清掃や部単位で取組む地域ボランティア、校内外の一日一善運動に、全校生徒が参加・実践している。	【満足度指標】 社会貢献活動の大切さを理解し、学年や部活動、生徒個々で地域ボランティア活動や一日一善を実践している。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	A・B合わせて85%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	総務課 保健指導課 学年	環境保全活動はこれまでも行われてきたが、日々の清掃やゴミの分別など、更なる徹底が必要である。	【満足度指標】 学校全体で環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各課 学年 各科	学校行事の整理・統合や精選ができないかの検討が十分とはいえない。また、業務が一部に偏る傾向がある。	【努力指標】 各分掌内で主管する行事や業務の見直しを行い、整理・統合や内容の精選につなげる。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善をある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	A・B合わせて70%以下の場合には再検討	教員対象に 7月・12月にアンケート調査